

どーにも腑に落ちないことがある。 『台湾』与党の蔡英文女史は なぜ負けたのか？

昨年行われた台湾の統一地方選で、蔡英文総統が率いる与党、民主進歩党（民進党）が、県、市の首長ポストを13から6に半減させ、大敗を喫した。

蔡氏は同日夜、責任をとる形で党主席を辞任した。

■たいへんな衝撃だった。

あれだけ「親日」で日・台湾ともに相思相愛のはずだった台湾が「親中路線」に方針を変えたのか？

それだけではない。

東京オリンピックに「台湾」で出場するのか、「チャイニーズタイペイ」名義で東京オリンピックに出場するのかという国民投票では「チャイニーズタイペイ」を選んだ国民が圧倒的に多い。

日本の海産物などの輸入禁止措置を解除するかどうかを問われれば、これも僅差ながら国民党の誘導もあって「輸入禁

止処置継続」なのである。

確かに、日本でも原発事故から2～3年はなかなか風評被害が消えなかった。

しかし、福島産の米、野菜、魚、海産物は、産地の人たちが毎日計測し出荷している。福島産の食料品はかえって安全というべきで、日本人の中でも良心的で朴訥な農民・漁民を疑ってどうする。薄っぺらな心しか持たない朝鮮半島人ならいざ知らず、親日で思慮深い台湾人が風評のみで福島人を差別するとは意外な驚きだった。

もともと、台湾は、一度も共産主義をとったことはない。台湾人は中国に納税をしたこともない。大陸の「共産主義中国」と「台湾」は全く別の国である。それなのに「チャイニーズタイペイ」なのか？！

日本人から見れば、大変に奇異に思える。李登輝総統も蔡英文総統も大変な親日家である。

さぞや、悲しき、悔しい思いをされているのではないのか。

台湾人はどうやら『親日』と『親中』を都合よく使い分けの人達だったようだ。



台湾で行われた統一地方選で民主進歩党が大敗し硬い表情で党主席の辞任を表明する蔡英文総統(中央)

